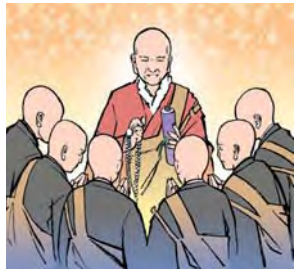


お祖師さまの教えを先師先聖物語 第1回



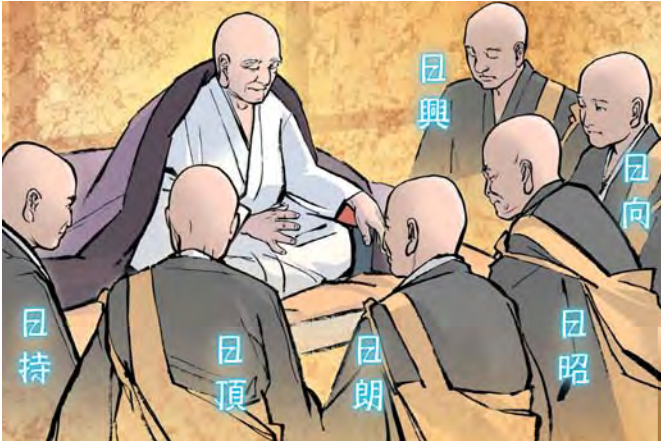
本年よりお祖師さま（日蓮上人）から門祖日隆聖人までの約百年間、「お祖師さまの教えを正しく受け継がれた先師先聖」のお話を取り上げます。小中学生の皆さんにも理解できるように、平易な文章と写真やイラスト等を交えて分かり易く掲載しますので、どうぞ、ご家族揃ってお読みください。

六老僧 ①

お祖師さま（日蓮上人）は晩年、身延山（山梨県）で、お弟子やご信者を導き育てることに専念して過ごされていったんだ。

でも身延山に入って九年目の秋、お体のおとろえを心配したお弟子たちのすすめで、お祖師さまは養生のために常陸（茨城県）の湯（温泉）に向かわれたんだ。

しかし、その旅の途中の弘安五年（一二八二）十月十三日、武蔵国（東京都）のご信者・池上宗仲さんの家（現・池上本門寺）で六十一歳でお亡くなりになったんだ。お祖師さまは、ご自身の亡きあとを心配され、お亡くなりになる五日前の十月八日



亡くなる五日前、一番信頼される弟子六人を定められた

お祖師さまにお給仕をされた方なんだ。当宗はこの日朗上人の流れを汲んでいるんだ。

日興 (NICHIKYO)

身延山の地頭・波木井実長氏と対立し身延山を去り、富士山麓に大石寺（日蓮正宗総本山）と本門寺（静岡）を開いたんだ。

日向 (NICHIKYO)

十三歳でお祖師さまに入門し出家得度。御題目を弘めるために各地を走りまわられたんだ。建治二年（一二七六年）、お祖師さまのお師匠・道善房のお墓の前で、お祖師さまの書かれた『報恩抄』を朗読するという大役を務められたんだ。

日頂 (NICHIJO)

お祖師さまの有力なご信者である富木常忍氏の養子となり、幼くしてお祖師さまにお仕えされていたんだ。下総国（千葉県市川市）の弘法寺を拠点として布教に励まれていたんだよ。でも晩年、養父の常忍と対立してしまっただ。

日持 (NICHIJI)

お祖師さま亡き後、北樺太に渡り、そこから海外布教を志し満州に渡ったといわれているんだ。伝説によると日持上人が北海道を訪れた時、見たことも無い魚が大量に獲れたんだって。「法華のお坊さん」が来たからというので、その魚の名前を「ホッケ」と呼ぶようになったんだよ。

日昭 (NICHIJO)

初めは天台宗の僧侶だったんだけど、お祖師さまのお折伏をいただいて、御題目のご信心に改宗したんだ。お祖師さまが配流されている時も鎌倉を離れず、お祖師さまのみ教えを説き弘められた方だよ。

日朗 (NICHIRO)

文応二年（一二六一）年、お祖師さまをお師匠さまとして出家得度。お祖師さまの佐渡流罪の際、土牢に閉じ込められるという難に遭われるんだ。また佐渡流罪中のお祖師さまを八回もお訪ねし、最後は幕府からの赦免状を持って、お祖師さまをお迎えに行かれたんだ。日朗上人は、本当によく

み教えの系譜

